

知求会ニュース

2020年12月

第76号

◎ 訃報

中野重伸先生が2020年8月9日20時49分にご逝去されました。享年は81歳でした。生前、よく宇都宮大学附属図書館でお見掛けしたのが、昨日の様に思い出されます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◎ 着任教職員紹介その25

佐々木 優香 特任助教

国際学科所属の佐々木優香先生が、立花先生の代替教員として4月1日付で着任されました。

①氏名（英文表記）：佐々木優香（SASAKI Yuka）

②専門：日独移民研究

③前職：非常勤講師

④趣味：ヨガ ピラティス 辛い物を食べること

⑤自己紹介：

今年度、多文化共生論入門、多文化共生教育、ドイツ語の授業を担当しています。私の研究テーマは日本とドイツにおける国境を越える人の移動がもたらす社会の変化や、異なる文化的背景をもつ人々の共生について教育的側面に着目し検討することです。

私は高校の時にドイツ語と出会い、学部生時代はドイツ学を専攻していました。初めてドイツに行った際、何よりもドイツ社会の文化的多様性に驚かされました。そこからドイツの移民の歴史、移住・統合政策に関心を抱くようになりました。日本の外国人受入れの動向はドイツの経験と似ていると言われますが、その後の受入れ社会への統合支援においては多くの違いがあります。日本で外国人児童生徒の教育支援を考える際、ドイツのみならず、諸外国の現状にも目を向けることで、新たな視点で日本を見ることができます。

私が授業を担当するのは今年度限りですが、少しでも多くの方と関われることを楽しみにしています。

（2020年12月10日原稿受理）

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和2年10月15日）3面に、「2020 とちぎ知事選」コーナーで、「首長の意識 多様性必要」「県政評価 有権者と乖離」の内容で中村祐司先生の記事が掲載されました。

2. 下野新聞（令和2年10月20日）25面に、「負けない新型コロナ」コーナーにおいて「SDGs理解広める オンラインで全国と議論」「環境保全、映画やWS」の内容で**高橋若菜**先生・**石山ちひろ**さん(国際学科3年)の記事が掲載されました。
3. 下野新聞（令和2年12月6日）3面に、「宇大 HAND プロジェクト 外国人児童生徒支え10年」のタイトルで、「高校進学率向上へ全力」「活動まとめ記念誌を発行」の内容で**田巻松雄**先生の記事が掲載されました。
4. UUnow 第51号（令和2年11月20日発行）12-13頁に、「研究 keyword」コーナーで「美術史という旅、そして公共性」と題して、「出羽研究室」の**出羽尚**先生の記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 下野新聞（令和2年11月6日）3面に、「2020 とちぎ知事選」コーナーで、「宇大生ら有志3人」のタイトルで「投票啓発で学生が知恵」「ポスター制作、飲食店の「選挙割」」「自分ごととして考えて」の内容で**井手上健太**さん(国際学科4年)・**野沢万葉**さん(宇大3年)・**中嶋珠李**さん(東洋大4年)らの記事が掲載されました。
2. 下野新聞（令和2年11月14日）5面に、「2020 とちぎ知事選」コーナーで、「宇都宮大生4人が座談会」のタイトルで「若者目線で政策発信を」「SNS活用法に賛否」「コロナ対策、関心高く」の内容で**永島良恵**さん(国際学科4年)・**榊原彩加**さん(国際学科3年)・**鈴木ひとみ**さん(国際学科2年)・**丸山浩平**さん(国際学科1年)らの記事が掲載されました。

研究室訪問 54 第9号から国際学研究科に関する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

博士録 55 第22号から国際学部、国際学研究科に関する同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

知究人 36 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(**ちきゅうびと**)を設けました。

海外だより 31 第27号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 32 第35号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 20 知求会ニュース第 41 号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

「コロナ禍での UIPJ の活動」

Utsunomiya International Peace and Justice (宇都宮国際平和と司法研究会)

UIPJ2020 代表 菊地翔

新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、私たちの生活は大きく変わりました。たとえば、私たちは新学期が始まっても大学で授業を受けることができず、現在も授業のほぼ全てをオンラインで受けています。対面での課外活動も制限され、思うような活動ができている団体は多くはありません。しかし、そんな中でも、私が所属する UIPJ というサークルでは、オンラインでの活動を通じて、充実した日々を送ることができています。UIPJ は、顧問である藤井広重先生のご指導のもと、国際的な諸問題に関して研究を行うサークルです。

UIPJ では、3 月から藤井研究室の先輩方と共に、「感染症と平和・人権プロジェクト」というものに取り組んできました。5 月には、「エボラ出血熱の発生から終息宣言まで一私達の新しい生活様式に向けた過去からの教訓」と題したポスターを作成し、過去の事例を再検討することで、今後の日本での取り組みについて示唆を得ることができました。オンラインでの打ち合わせや意見交換など、始めは戸惑いもありましたが、メンバーと協力することで、良いものを作ることができたと思います。

また、9 月には国連グローバル・ウィークに合わせて、藤井研究室、宇都宮大学国際学部附属多文化公共センター共催で、「宇都宮大学 SDGs ウェビナー GLOBAL WEEK TO #ACT4SDGs」というイベントを開催しました。3 日間に渡って開催したこのイベントでは、講師の方をお招きした講演会や、学生による研究報告を行い、国際社会が抱える問題について理解を深める貴重な機会となりました。UIPJ にとっては初めてのイベント運営且つ、オンラインでの開催であったため、上手くいかない部分もありましたが、回を重ねるごとにサークルとしての一体感も感じることができ、イベントをやり遂げることができました。私個人としても、コメンテーターや代表としての挨拶など、初めてのことが多く緊張しましたが、その分多くのことを学ぶことができました。

私は、UIPJ での活動を通して、これまで自分が経験してこなかった様々なことに取り組んできました。まだまだ未熟でわからないことばかりですが、その都度支えてくださる先輩方や、藤井広重先生のご指導により、日々成長することができています。今はいつ自由な活動が再開できるかわかりませんが、オンラインでもできること、オンラインだからできることは沢山あります。これからも探求心を忘れず、研究に励んでいきたいです。活動は、UIPJ の公式ブログ (<https://profile.ameba.jp/ameba/uipj>) にて報告しておりますので、ご関心をお持ちいただけると幸いです。

最後になりましたが、ご講演をしてくださった講師の方々、この度「学生サロン」コーナーへの寄稿の機会をくださった知求会の皆様に感謝申し上げます。

(国際学部 国際学科 第2年次在学学生)

(2020年10月20日原稿受理)

キャリア指南15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2020年の師走を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労しています。)

「多文化共生を導く K-culture」

静岡大学 非常勤講師

崔 寶允

私は韓国ソウル出身で文部科学省の外国人研究留学生として宇都宮大学の大学院に入学し、2013年3月に国際学研究科博士後期課程を修了しました。崔寶允(チェ・ボユン)と申します。丁貴連先生の指導を受けて『韓流ドラマと日本社会・家族・女性・性を手がかりとして』という題目の学位論文を書きました。韓国ドラマが海外、とりわけ日本で社会現象を巻き起こしているのを見て学問的に未開拓なドラマ分野を研究してみたいと思ったからです。大学院を修了してから宇都宮大学、立命館アジア太平洋大学を経て現在は静岡大学で韓国語の授業を担当しています。

日本の大学で韓国語を教えながら学生たちを観察していると、近年韓国語学習の動機がK-POPやアイドル、韓国ドラマ、映画など文化に対する関心に起因する 경우가非常に多くなっています。私が韓国で日本語を習い始めた頃はジャニーズ系アイドルや安室奈美恵さんが人気だったので時代がすっかり変わってしまったことを感じます。

現在 K-POP や韓国映画、ドラマは世界的に注目され、人気を博しています。とりわけ2020年は韓国の文化・芸術界において忘れられない一年になると思います。2020年2月にボン・ジュノ監督の映画『パラサイト(2019)』が韓国映画史上初、アカデミー賞を受賞しました。100年の歴史を持つ韓国映画がアカデミー賞にノミネートされたのも『パラサイト(2019)』が初めてでしたが、作品賞、脚本賞、監督賞、国際長編映画賞を受賞したのも初めてです。『パラサイト』が今年のアカデミー賞の主要部門を総嘗めしたと言っても過言ではありません。92年の歴史を誇るアカデミー賞で、英語でない外国の映画が作品賞を受賞したのは前例のないことです。これまでアカデミー賞を獲得した作品はハリウッドで制作された英語の映画だけでした。白人中心主義と多文化に対する排斥な態度を堅持してきた

アカデミー賞の壁を韓国映画が壊したのです。保守的なアメリカ社会を揺るがすほど、文化コンテンツが持つ力は大きいと思います。

また、新型コロナウイルスのパンデミックによりステイホームを余儀なくされている中、一本のドラマが日本で社会現象を巻き起こしました。『愛の不時着(2019)』がそれです。『愛の不時着』は世界で唯一の分断国家である韓国で、北の男と南の女の叶わないラブストーリーを今までヴェールに包まれていた北朝鮮をメイン舞台として描いたドラマです。日本では黒柳徹子氏(80代)、テリー伊藤氏(70代)、笑福亭鶴瓶氏(60代)、モデルの藤田ニコル氏(20代)、三代目 J SOUL BROTHERS の岩田剛典氏(30代)、現職外務大臣である茂木敏充氏(60代)や元大阪府知事の橋下徹氏(50代)などの有名人が『愛の不時着』にハマったと公表しました。以前『冬のソナタ』ブームとの違いは、このドラマが世代や性別を超えて受容され人気を博しているところです。

これだけではありません。9月には韓国の人気アイドルグループ、BTS(防弾少年団)の「Dynamite」という曲がアメリカのビルボードシングルチャート HOT100 で1位を記録しました。これは世界の音楽市場で韓国のアーティストとして成した初めての快挙です。また、来年1月31日に行われるアメリカ最高権威の音楽授賞式であるグラミーアワーズ(第63回)でBTSは「ベストポップデュオ/グループパフォーマンス(Best Pop Duo/Group Performance)」部門にノミネートされました。グラミー賞はアメリカの3代音楽授賞式の中で最も有色人種に厳しいとして知られています。

しかし、彼らが音楽を通して全世界の若者に発信してきたメッセージや超国家的なファンダムを形成している「ARMY(アーミー)」というファンクラブを考えると受賞する可能性は高いと思います。21世紀のビートルズと呼ばれているBTSは2018年9月、リーダーのRMが国連で「Love yourself」というタイトルで演説をしました。真正な愛は自分自身を愛することから始まるという彼らのメッセージは音楽を通して全世界の若者に響き渡っています。BTSはメンバー全員が曲作りに積極的に参加し、自分たちのメッセージを発信しています。BTSの音楽が全世界の若者に及ぼす影響力は計り知れません。

筆者は文化コンテンツに多文化共生への鍵があると思います。映画やドラマ、音楽で全世界の人々が共感し、繋がり、励まし合っています。差別や偏見を無くし、より良い世界を作るために普通の人々が連帯すれば少しずつ世界は変わっていくと思います。その小さな一歩を現在は韓国の大衆文化、K-culture が担っています。また次はどのようなコンテンツが出て世界中の人々に感動と癒しを与えてくれるかが楽しみです。

(国際学研究科 国際学研究専攻 第3期修了生 / 国際社会研究専攻 第9期修了生)
(2020年11月28日原稿受理)

東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん(国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生)が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同

窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行（4月1日、9月1日）の変更になりました。

EU支部だより

第38号からイタリア在住の松原真実子さんによる知求会EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の36号の内容は、1 イタリア、クリスマス休暇に州またぐ移動を禁止 2 サンタはロックダウンの対象外、伊首相が子供の不安を払拭 3 EU支部だより ―コロナで増えた「オンライン会議」―です。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集者のひとりごと

●今年の元旦は勤務していた発掘現場の西方城址から初日の出を拝み、健康と仕事、研究、学業などの成果を祈願しました。しかしながら、新しい人事制度やコロナ禍の影響などあって、編集者の雇用も奪われ厳しい環境でした。現在、コロナ感染者が増え続け皆様も不安な毎日を過ごしておられることと思います。この冬が正念場です。体力維持のため、毎日スポーツジムで泳いでいます。また、ストレス解消のため、県内の文化施設巡り（民俗歴史資料館・美術館など）を心がけています。宇都宮市の中心市街地育ちのため、県内のことをあまり知らないことに気づかされています。例えば、大田原市なす風土記の丘湯津上資料館での展示で、那須地方は縄文時代に会津地方と交流があったことが指摘されていました。また、本年は「宇都宮・会津仕置 430 周年記念行事」が福島県立博物館・小峰城歴史館・栃木県立博物館・大田原市那須与一伝承館・さくら市ミュージアム―荒井寛方記念館―などで展示開催され、教科書だけでは知ることができなかった豊臣秀吉の足跡を知ることができました。一方、東京国立博物館平成館「特別展 桃山 天下人の 100 年」では体系的に歴史や美を知ることができました。これらの展示物による関連資料のもつ力を改めて感じました。

さて、知求会ニュースも、無事19年目を配信することができました。これまでの原稿執筆者の皆様、本当にありがとうございます。Season's Greetings! 皆様、よいお年をお迎え下さい。

編集後記：2010年4月26日から知求会ニュースのバックナンバーは国際学部同窓会HP (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。 chikyukai@freeml.com

宇都宮大学大学院国際学研究科同窓会